

御文章に聞く(第22回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

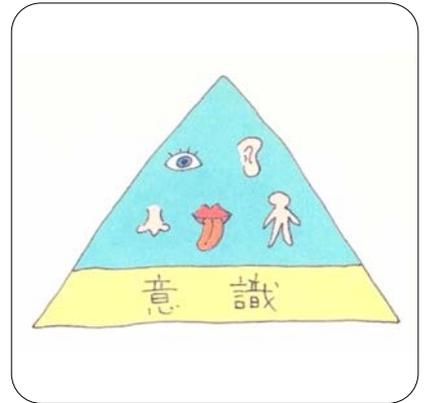
紙)を味わっていききたいと思えます。蓮如上人は浄土真宗の信心を「後生

いまの世章(四帖第十通) されば、弥陀をばなにとようにたのみ・また後生をばなにとねがうべきぞというに、なにのわずらいもなく、ただ一心に弥陀をたのみ・後生たすけたまえとふかくたのみもうさん人をば、かならず御たすけあらんことは・さらさらつゆほども疑あるべからざるものなり、このうえには・はやしかと御たすけあるべきことありがたさよとおもいて、仏恩報謝のために・念仏申すべきばかりなり、あなかしこ あなかしこ

八十三歳 御判

今回も御文章(蓮如上人からのお手

仏教語辞典



意識

眼識(物を見るはたらき) 耳識(音を聞くはたらき) 舌識(味を嗅ぐはたらき) 身識(触れるはたらき)の五つの感覚器官を仏教では五識とい、第六識として五識の奥に意識がある。意識のはたらきによって、五識を相対的に捉え、認識し推理し思いをめぐらすことが

『気になる仏教語辞典』 著・麻田弘潤 誠文堂新光社 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

たすけたまへと弥陀をたのめ」とあらわしてくださいました。この「たのむ」という言葉は「お願いをする」ということですが、私が願うことではなく、阿弥陀さまが私を願っておられることに「おまかせします」と受け入れることなのです。 南無阿弥陀仏を聞くとは、阿弥陀さまが本願を成就して、私の往生を決定してくださったことを聞かせていただくことです。聞かせていただくことによって、自らの往生が決定されていることを知らされます。そのおおせに順って、安心して「どうぞよろしく」と、往生を待ち受ける期待の心情を言葉にしたのが、「後生たすけたまへと弥陀をたのむ」ということでした。 本願を依りどころとした信心によって、旧来の宗教観に根ざした「性」という差別から解放されていくのでした。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届け致します。今年も無参拝での報恩講法要とする判断をいたしましたこと、深くお詫ひ申し上げます。 報恩講では三度ご法話のご縁がありました。 ・お釈迦さまが仏教を説かれた背景。 ・浄土真宗を開かれた親鸞聖人の御一代。 ・浄土真宗の特色ともいえる本願力廻向(他方)。 無参拝だったということ、皆さまにはお聴聞のご縁がありませんでした。お伝えしますので、いつでもお尋ねください。(釋法道)

行事案内

年間行事予定にある五月九日(日)の願証寺さま継職法要への団体参拝は、無参拝で執り行われることになりましたので中止と致します。 なお、当日はオンライン配信を予定されていることですのでご案内致します。

願証寺 第二十代 住職継職法要 並びに 蓮如忌法要
オンライン配信のご案内
令和3年5月9日(日) 11:30~15:30
日頃より門徒の皆様におかれましては、御礼申し上げます。この度の住職継職法要並びに蓮如忌法要におきまして、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、YouTubeLiveでのオンライン配信を行います。多数のご参加をよろしくお願いいたします。
参加方法
※前日の式次第は、別途パンフレットをご覧ください。
※初めてYouTubeLiveをご利用される方は、事前に配信ページにアクセスし、演習テストをお願いたします。
※演習に異議なく、配信の開始は出来がなすまでご了承下さい。

